

(別紙2-1) 平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200703		
法人名	有限会社 いこいの里		
事業所名	グループホームいこいの里		
所在地	〒856-1689 長崎県東彼杵郡川棚町新谷郷2040-15		
自己評価作成日	平成27年1月7日	評価結果市町村受理日	平成27年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4271200703-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成27年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・スタッフ同志が明るく、わきあいあいと毎日仕事をしている為入居者様へもその雰囲気伝わり、なごやかに、にこやかに過ごして下さっている。
 ・親しみのある中にも、入居者様を尊重した言葉を心がけている。
 ・お一人お一人の気持ちを尊重しながら、家事等のお手伝いをお願いしている。
 ・体調や好みに応じて体操の実施、HDDでの歌の視聴やカラオケ等楽しんでいただいている。
 ・全居室にトイレ、洗面所を設置している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、川棚町でも佐世保市に近い場所に位置し、権現崎の高台にあります。周囲は住宅地で静かな環境にあり、眼下に広がる大村湾の景色はまさに絶景と言えます。広い敷地内には藤棚や葡萄の樹もあり、居ながらにして四季を感じることが出来る環境が整えられています。
 地域活動への参加にも熱心で、地域密着型のホームづくりを目指されていることがうかがえます。また、スタッフの笑顔が多く、その中で利用者が穏やかに生活されていることもよくわかります。家族との協力関係も築かれており、ホームから自宅へ赴くなどの取り組みも見られます。
 ホームでは、「利用者が如何に安心して、楽しく過ごせるか。」ということを考えられており、ホーム内に集える場所を設けたり、いつでも入浴できる体制を整えたり、食事にも細心の注意を払ったりと、ホームの努力も見えてとることが出来ます。

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「尊厳ある生活の重視」をミーティング時等に再三確認し実践につなげている。	理念は前代表により掲げられ、およそ10年の月日が経過しているとのことです。スタッフだけでなく、来訪される方にもわかりやすいように額にいられて掲げられており、職員間での周知を目的に月に一度のミーティング時に確認が行われています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に積極的に参加して交流している。 清掃活動等にも参加している。	地域で行われる七夕まつりやふれあいまつり、運動会、地区の行事には天候等を勘案して参加されています。自治会にも参画され、班長等の役も担われています。近所の人からの野菜の差し入れなど、日常的な交流も見られます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の時に地域の民生委員、総代の方にも参加して頂き、課題と一緒に考え、意見を聞いたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き、近況等を伝え、意見を述べて頂き、改善に努めている。	運営推進会議は、定期的開催されています。他の行事に合わせて開催されるなど、スタッフも自然と会議に参加できるよう工夫されています。運営推進会議で得られた意見を基に、消防計画等を考案されるなどの事例も見受けられます。		
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者は、電話をしたり、直接出向いたりして、相談報告を行っている。推進会議にも出席して頂いている。	町役場との関係は良好に保たれており、利用者の相談などにも応じられています。セミナーの開催等についての情報交換もあり、協力関係が築かれていることをうかがい知ることが出来ます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	セミナー等で学んだ事をスタッフのミーティング時に発表したり、資料をもとに勉強会を開いたりしている。	年に1回は勉強会を開催されており、スタッフによる外部セミナーへの参加も見られます。セミナー参加後はミーティングで報告するなど、スタッフ間の周知にも取り組まれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナー等で学び、身体的なことだけが虐待ではなく、声かけ、無視等の精神的なことも虐待になるということをスタッフ一同心にとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護のことは知ってはいるが、現在は活用できていない。活用できるよう勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者、介護支援専門員、計画作成担当者が契約時等に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議時や面会時または訪問時に、意見や要望等を伺いながら運営につなげている。必要に応じて電話もしている。	家族からの意見を得るために意見箱が設置されています。また、訪問時や面会時にも積極的に意見を伺うように努められています。運営推進会議においても、より多くの意見が得られるよう働きかけられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議時または、日頃からスタッフの意見を聞き反映させている。	月に一度の会議において、スタッフは必ず一つ以上の意見を出すようにされています。会議には、施設長が必ず出席し、スタッフの意見を運営に反映するよう努められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末年始に特別手当をつけたり、能力や勤務年数に応じてボーナスを支給している。年に1回昇給がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の情報を知らせ参加を促している。実践者研修の申し込みも毎年行っている。資格試験も受けるよう超えかけしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	彼杵3町ケアセミナー・グループホーム協議会等へ参加し、交流を深めたり、意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人御家族から思いを聞き取り、対処法を検討したり不安を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の意見要望を受け取め、理解し安心して預けて頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の生活状態、生活歴を聞き、その方に合ったよりよい支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なこと、好きなことを聞き取り、負担にならない範囲でお手伝いをして頂き、お手伝いをして頂いた後は、感謝の気持ちを表した言葉かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事、推進会議等に参加して頂いたり、面会時や、必要に応じて電話を入れて状況報告をしたりと支援して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の方の面会自由に来て頂いている。手紙のやり取りもして頂き個々に応じて支援している。	家族の協力のもと、馴染みの理容室へ出かけられる利用者もおられ、希望に応じて家族と共に外出できるようにも支援されています。知人の面会等の受け入れも行われており、関係が途切れないように支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の性格、行動を理解し、ホールで過ごされるよう声かけし、皆さんで楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡があった時には、相談に応じ支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人、御家族から思いや希望を聞き取り、入居者様の個性を理解し対応している。	利用者や家族の意向や希望を聴き取るように努められています。利用者が穏やかに過ごせるように、スタッフは意向に沿った支援に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を聞き取り、日々の生活の中で活かせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム、心身状態等を把握し、介護の基準にし、充実した生活を送って頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議等にケアカンファレンスを行い、利用者様御家族様の意向を踏まえ、医療面も考慮しながら計画を作成している。利用者様の希望も入れるよう気がけている。	スタッフ全員参加のカンファレンスが開催されており、そこで出た意見等をもとに計画が作成されています。利用者だけでなく、家族や医師の意見も反映されており、現状に即した計画の作成に努められています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録への記入、連絡帳への記入を行い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人個人の要望を把握し、個別に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等でバンドの方、演芸等のボランティアの方の参加をお願いしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	スタッフの付き添いで、かかりつけ医の定期受診を確実にに行っている。受診結果は記録に確実に残し、スタッフ全員把握している。受診結果は面会時または必要に応じて電話で連絡している。	ホーム利用前からのかかりつけ医を受診されている利用者が殆どです。通院には、家族の協力も得られています。ホームにて付き添いを行った際には、結果を必ず家族に報告され、情報共有にも努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変を感じた時等看護職員へ連絡し、指示をあげる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に付き添い状態を伝えている。面会へも行き、状況を聞いたり、退院時も迎へに行きDrの指示を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や御家族と話し合いを持ち、意思の確認を行い要望に添えるよう努めたい。現実的にはまだ経験はない。看護師の指導のもと勉強会を行っている。	家族や医師の意見を聞いて、慎重に対応する旨の方針を持たれています。現在までに対応された事例はないとのことですが、勉強会を重ね家族やスタッフの心のケアを含めた支援を目指されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成している。DVDでの勉強を行っている。定期的ではないが研修会等への参加も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の避難訓練を実施している。地区の消防団の方への協力を声かけしている。カセットコンロ、水等も備蓄している。	避難訓練は実施されていますが、現在まで消防団との訓練はできていないとのことです。火災等を未然に防ぐための点検表が活用され、安全管理に努められています。	消防団との避難訓練の実施と共に、備蓄の整備や危機管理に向けた更なる取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重した言葉かけを行っている。傷つけることがないよう、さりげない心配りに努めている。利用者様によって、下の名前が馴染まれている方は御家族に了解を頂き、下の名前でお呼びしている。	一人ひとりを尊重した対応が出来るように心掛けられています。排泄に関しては、周囲にわからないような言葉かけをするなど、細部に渡り気を配られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけしたり、見守りの中で利用者様の希望を把握するが、できるだけご自身で意思表示されるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、居室で1人でテレビを見られたり、休まれたり、ホールで皆さんと過ごされたりと自由にして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容室がある方はそこへ行かれたり、ホームへ出張できて頂いているのでホームでされるかたもいる。服装も利用者様に選んで頂きフォローしたりしている。行事の時にはお化粧のお手伝いもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はスタッフも一緒に同じものを食事している。下ごしらえも無理がない範囲でお手伝いしてもらっている。行事食も取り入れている。毎月1日はお赤飯、茶碗蒸しを作っている。好き嫌い等も把握しており別なものを出すように心がけている。	一人ひとりに合わせた食事に気を配られており、特に「刻み食」等への対応に気をつけられています。行事食など日付がわかるような工夫も見られ、食事を楽しめるように支援されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェック表に記入し、健康状態の把握を行っている。利用者様に応じて刻み食、ミキサー食の対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし口腔ケアを行ってもらっている。一人では難しい方には、仕上げ介助を行っている。週に1回義歯消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄記録をつけ、排泄パターンの把握に努め、自立に向けた支援を行っている。日中はハビリパンツをはずすよう努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握できるように工夫されたチェック表を活用され、誰もが対応できるようにされています。自立に向けた支援を行いやすい環境が整えられています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便記録をつけ、水分補給、植物繊維、乳製品等の摂取を心がけている。運動も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、ユニットで曜日をずらしているのが希望があれば自由に入って頂けるようにしている。柚子湯、菖蒲湯等実施している。更衣室には夏場は扇風機、冬場はファンヒーターを利用、浴室内もシャワーを出したりして暖かくしている。	基本的には、入浴日が決められていますが、希望に応じて柔軟に対応できる体制は整えられています。季節に合わせた環境も整備され、安心して入浴できるよう努められています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もホール内ソファや居室等好きな場所でくつろいで頂いている。室温調整をしたり、快適に休まれるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診ノート、服薬ノートをスタッフ全員が把握し、確実に内服して頂いている。症状の変化時にはかかりつけ医、看護職員へ連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じた家事等のお手伝いをお願いしたり、散歩、ドライブ、カラオケ、DVD観賞等好きなことを楽しんで頂けるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候をみてドライブ、散歩、足湯等へ出かけている。	その日の状況に応じて、近隣や広い敷地内での散歩を楽しまれています。町内の行事へも積極的に参加されています。墓参りなどには、家族の協力が得られています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないがご家族とも相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでも応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にソファや椅子等を置きくつろげる空間作りに努めている。季節に合った飾り付けをしたり、写真を貼ったりと工夫している。	ホーム内にはソファが多く設置されており、利用者が集える場所も設けられています。全体的に落ち着いた雰囲気、飾ってある写真も季節毎に交換されています。利用者による制作物などにより、居心地の良い空間が設えられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファ、玄関先の椅子等自由に座って雑談されたり、テレビを見たり、うたた寝したりと自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ親しんだ物を持ってきて頂き、安心して居心地良く過ごして頂けるよう努めている。仏壇も自由に持ち込んで頂いている。テレビも自由に頂いている。	馴染みの物などの持ち込みが行われ、居心地の良い空間作りに努められています。各居室には、仏壇やテレビなどが持ち込まれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を掛けて自分の部屋を理解して頂いている。手すりを設置したり、バリアフリーにして安全に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「尊厳ある生活の重視」をミーティング時等に再三確認し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に積極的に参加して交流している。 清掃活動等にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の時に地域の民生委員、総代の方にも参加して頂き、課題と一緒に考え、意見を聞いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開き、近況等を伝え、意見を述べて頂き、改善に努めている。		
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者は、電話をしたり、直接出向いたりして、相談報告を行っている。推進会議にも出席して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	セミナー等で学んだ事をスタッフのミーティング時に発表したり、資料をもとに勉強会を開いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナー等で学び、身体的なことだけが虐待ではなく、声かけ、無視等の精神的なことも虐待になるということをスタッフ一同心にとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護のことは知ってはいるが、現在は活用できていない。活用できるよう勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者、介護支援専門員、計画作成担当者が契約時等に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議時や面会時または訪問時に、意見や要望等を伺いながら運営につなげている。必要に応じて電話もしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議時または、日頃からスタッフの意見を聞き反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末年始に特別手当をつけたり、能力や勤務年数に応じてボーナスを支給している。年に1回昇給がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の情報を知らせ参加を促している。実践者研修の申し込みも毎年行っている。資格試験も受けるよう超えかけしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	彼杵3町ケアセミナー・グループホーム協議会等へ参加し、交流を深めたり、意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人御家族から思いを聞き取り、対処法を検討したり不安を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の意見要望を受け取め、理解し安心して預けて頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の生活状態、生活歴を聞き、その方に合ったよりよい支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なこと、好きなことを聞き取り、負担にならない範囲でお手伝いをして頂き、お手伝いをして頂いた後は、感謝の気持ちを表した言葉かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事、推進会議等に参加して頂いたり、面会時や、必要に応じて電話を入れて状況報告をしたりと支援して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の方の面会自由に来て頂いている。手紙のやり取りもして頂き個々に応じて支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の性格、行動を理解し、ホールで過ごされるよう声かけし、皆さんで楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡があった時には、相談に応じ支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人、御家族から思いや希望を聞き取り、入居者様の個性を理解し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を聞き取り、日々の生活の中で活かせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム、心身状態等を把握し、介護の基準にし、充実した生活を送って頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議等にケアカンファレンスを行い、利用者様御家族様の意向を踏まえ、医療面も考慮しながら計画を作成している。利用者様の希望も入れるよう気がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録への記入、連絡帳への記入を行い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人個人の要望を把握し、個別に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等でバンドの方、演芸等のボランティアの方の参加をお願いしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	スタッフの付き添いで、かかりつけ医の定期受診を確実にに行っている。受診結果は記録に確実に残し、スタッフ全員把握している。受診結果は面会時または必要に応じて電話で連絡している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変を感じた時等看護職員へ連絡し、指示をとおげる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に付き添い状態を伝えている。面会へも行き、状況を聞いたり、退院時も迎へに行きDrの指示を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や御家族と話し合いを持ち、意思の確認を行い要望に添えるよう努めたい。現実的にはまだ経験はない。看護師の指導のもと勉強会を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成している。DVDでの勉強を行っている。定期的ではないが研修会等への参加も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の避難訓練を実施している。地区の消防団の方への協力を声かけしている。カセットコンロ、水等も備蓄している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重した言葉かけを行っている。傷つけることがないよう、さりげない心配りに努めている。利用者様によって、下の名前が馴染まれている方は御家族に了解を頂き、下の名前でお呼びしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけしたり、見守りの中で利用者様の希望を把握するが、できるだけご自身で意思表示されるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、居室で1人でテレビを見られたり、休まれたり、ホールで皆さんと過ごされたりと自由にして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容室がある方はそこへ行かれたり、ホームへ出張できて頂いているのでホームでされるかたもいる。服装も利用者様に選んで頂きフォローしたりしている。行事の時にはお化粧のお手伝いもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はスタッフも一緒に同じものを食事している。下ごしらえも無理がない範囲でお手伝いしてもらっている。行事食も取り入れている。毎月1日はお赤飯、茶碗蒸しを作っている。好き嫌い等も把握しており別なものを出すように心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェック表に記入し、健康状態の把握を行っている。利用者様に応じて刻み食、ミキサー食の対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけし口腔ケアを行ってもらっている。一人では難しい方には、仕上げ介助を行っている。週に1回義歯消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄記録をつけ、排泄パターンの把握に努め、自立に向けた支援を行っている。日中はリハビリパンツをはずすよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便記録をつけ、水分補給、植物繊維、乳製品等の摂取を心がけている。運動も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、ユニットで曜日をずらしているのが希望があれば自由に入ってもらっている。柚子湯、菖蒲湯等実施している。更衣室には夏場は扇風機、冬場はファンヒーターを利用、浴室内もシャワーを出したりして暖かくしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もホール内ソファや居室等好きな場所でくつろいで頂いている。室温調整をしたり、快適に休まれるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診ノート、服薬ノートをスタッフ全員が把握し、確実に内服して頂いている。症状の変化時にはかかりつけ医、看護職員へ連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じた家事等のお手伝いをお願いしたり、散歩、ドライブ、カラオケ、DVD観賞等好きなことを楽しんで頂けるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候をみてドライブ、散歩、足湯等へ出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないがご家族とも相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでも応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にソファや椅子等を置きくつろげる空間作りに努めている。季節に合った飾り付けをしたり、写真を貼ったりと工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファ、玄関先の椅子等自由に座って雑談されたり、テレビを見たり、うたた寝したりと自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ親しんだ物を持ってきて頂き、安心して居心地良く過ごして頂けるよう努めている。仏壇も自由に持ち込んで頂いている。テレビも自由に見て頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を掛けて自分の部屋を理解して頂いている。手すりを設置したり、バリアフリーにして安全に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				